

木彫工房 杉彫

業種	製造業	事業所所在地	佐賀県鹿島市	資本金	
				従業員数	2名

	被承継者（左）		
	小森 恵吾	64歳	※承継時
	承継者（右）		
	小森 恵司	36歳	※承継時

事業承継を行った時期	被承継者と承継者の関係	
2017年1月	子ども	
承継前の主たる事業の内容	承継前の主たる事業の課題	
木製品製造業	・既存商品・サービスの売上高の拡大	佐賀県の伝統工芸品である「浮立面（ぶりゅうめん）」の需要が減り、売り上げが落ち込んできた中で、販路拡大を見込んでデパート等で催事を行ったがなかなか成果がみられなかった。時代のニーズに沿った製品作りが課題だった。

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 1年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
被承継者である父が65歳になる年まで一つの区切りとしていたため、その年の1月から事業承継を決めた。	今までの経験を踏まえた経営方法、資金繰りについて。	資金の使い道を間違わないかどうか。
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安
	特になし。	特になし。

これに一番苦労した！

親子関係での事業承継でお互いの意見が合わないことも多々あった。その中で一番難しかったのは意識の違い。新しいものに挑戦したいという承継者の想いと、今までのやり方でいいと思う被承継者。外に出て営業することをしないと仕事を持ってこれないので年に何回も催事に出店したりしたが、それより技術を磨く方を優先する職人的な考え方の違いで今なお苦労している。

事業承継について相談したこと	
相談した機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
商工会・商工会議所	廃業と開業について相談とその手続き。
いつから相談？	
承継実行の 1年前	
相談のきっかけ	
以前から取引や付き合いがあった	


経営革新等に係る取組の標題

伝統工芸と芸術を見て触って体験する交流型店舗スペースの開設

経営革新等に係る取組の内容	役務の新たな提供の方式の導入
---------------	----------------

- 被承継者は佐賀県が創設した制度である「佐賀マイスター」の認定を受け、佐賀県南西部に伝わる五穀豊穡祈願、奉納神事等を行う伝統芸能「面浮立（めんぶりゅう）」の際に付ける「浮立面（ぶりゅうめん）」の製造を行っている。
- 浮立面は、祭りのときだけでなく1990年位までは魔除けとして一家に一個は屋内に飾ったり、新築や結婚祝いの贈り物等にも使われ、注文を受けてから納品まで1年お待ちをすることもあった。
- しかし、1990年以降はバブル経済崩壊の影響もあって贈答需要が激減し、住宅や生活の洋式化で魔除けとしての需要も減ってしまったため、仏像や木製品のオーダーメイド制作にも着手したが販売は伸びなかった。また、店舗では職人が作業するスペースとともにアイテム数の多い商品を所狭しと陳列している状況だったため、1つ1つの商品の良さが伝わらず、購買に結び付かなかった。
- 当工房の商品は、触ることで木の味わいを感じ購入した後も触り続けることで、さらに木の色つや等の変化を楽しんでいける魅力があることに着目。そこで、直接商品に触ってもらうために“見る”から“触る”が可能な展示スペースを設けて、実際に木を彫る難しさを体験でき、芸術に触れることができる環境を実現した。また、移動式什器を使い店内で体験するスペースを確保できたことで、伝統的な浮立面はもちろん、現代人のニーズや住宅事情に合わせた木工製品を展示していく。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
当工房のように浮立面の展示と購入が可能で体験できる場所は他にない。	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">■ 設備費</div>  </div> <p>経費の主な使い道</p> <p>設備費（天井工事費、電気工事費、床はりかえ工事費、倉庫収納工事費、什器撤去・取付工事費等）</p>

認定経営革新等支援機関の名称：鹿島市商工会議所

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容

<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施
---	---	---	----------------------------------

本事業制度についての説明があり、どのようなことで現在困っているかの相談をした上で、計画を立て書類作成してもらい申請した。

今後に向けて～次の目標

2019年から2022年に向けて	体験スペースを確保できたので、体験内容の企画と実施を進めていく。
売上高 116 %UP	

これから事業承継に取り組む事業者の方へ

被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
若い人の感覚でどんどん新しいことに挑戦してみたらどうかと思う。	承継する前と後での違いは責任の重さが一番の違いで、自由に経営できる反面、その反動は自分に返ってくる。自分にとっては、継承した後のほうが気持ちに余裕を持って仕事をすることができている。それは、失敗してもいいから挑戦し続ける環境があるからだと思う。失敗しても最悪自己破産すればいいことだし、死ぬことはない。そういう強い意志さえあれば、承継については何の心配もいらなと思う。